





本書並ニ地圖ハ用兵上極秘ヲ要ス
モ付キ御一覽後返却ヲ乞フ

有事ノ際韓國内ニ於テ我國權國利ヲ
 保護センカ爲メニ某國ト交戦スル場
 合ヲ顧慮スルニ京城ヲ右領シタルモ
 ノ戰略上ノ捷利ヲ獲ルヤ明カナリ是
 レ明治廿七八年戦役ノ證スル所ナリ
 而シテ速ニ京城ヲ右領セント欲セハ
 其上陸地トシテ最モ有利ナルハ仁川
 並ニ其附近港灣ニ若クモ無シ同役
 ニ於テ第一着ニ仁川ノ右領ヲ謀リシ
 ハ是カ爲メナリ
 戦役後韓國ニ對スル戰略上ノ景況ハ



漸次不利ニ陥リ目今、如ク金州半島
威海衛並ニ膠州灣ニ強國ノ播據ヲ見
ルニ於テハ其對岸ナル仁川ヲ我軍ノ
上陸地トシテ撰定センコト容易ノ業
ニ非ラス交戰國ノ海軍ヲ大半撲滅シ
海上權ヲ制スル後ニ非ラサレハ韓國
ノ西岸ヨリ上陸スルコトヲ望ム可
サルヤ勿論ナリ
東岸ニ於テハ元山港ヲ除ク外大部隊
ノ上陸地ニ適スルモノナシ此地ハ浦
塩斯德ニ對シテ其危険ナルコト西海
岸ニ讓ラス
之ニ反シ南海岸ハ竹敷要港並ニ佐世

保軍港ノ監視下ニ在リ且ツ我邦ヲ距
ルコト遠カラス運送船ノ往復ニ尤モ
便利且ツ安全ナリ又海軍ヲシテ運送
船護衛ノ繫累ヲ少ナカラシメ一意海
戰ニ從事セシメ得ヘキ等諸種ノ利益
アルヲ以テ今後ニ於ケル我軍ノ上陸
地ハ此方面ニ撰定セサル可ラス
南海岸中釜山灣ハ面積狭少ニシテ大
軍ノ上陸ニ適セス又風浪並ニ敵艦ニ
對スル遮護充分ナラス固城灣泗川灣
河東灣順天灣寶城灣等アリト雖氏未
タ適當ノ上陸地ヲ發見セズ
獨り馬山浦ハ其海面稍廣ク敵艦並ニ

風浪ノ遮護確實ニシテ且ツ巨濟島其
他近傍ニ海軍ノ根據地ト爲スヘキ港
灣少ナカラス而シテ上陸後ノ景況亦
佳良ナリ其西隣鎮海灣モ亦殆ニト同
様ノ價值ヲ有ス
依テ今後ノ作戰ニ於テハ上陸軍ノ六
七分ヲ馬山浦(鎮海灣併用)ヨリ三四分
ヲ釜山ヨリ上陸セシムルコトナル
ヘキ豫定ナリ
日清戰役ノ例ニ照スニ釜山ニ於テハ
帝國臣民ノ居留地廣キヲ以テ實際ニ
當リ上陸上左程ノ困難ヲ感セサリシ
モ仁川ニ於テハ居留地域狭ク且各國

居留地並ニ外國人ノ所有地犬牙錯交
スルヲ以テ其不現實ニ言フ可ラス之
カ爲ノ屢々上陸軍隊ト諸外國公使及
居留民トノ間ニ葛藤ヲ生シ動モスレ
ハ國際談判ヲラントスルノ趣アリテ
軍部ハ勿論當時ノ内閣及外務省ノ受
ケニ困難ハ名状ス可ラサルモノアリ
シ
此等ノ殷鑑ニ依リ今回馬山浦開港ノ
時期ヲ利用シ郵船會社商船會社若ク
ハ釜山商業會議所等ノ團體或ハ確實
ナル一私人ノ名ヲ以テ同所ニ約五萬
坪ノ地所ヲ購入シ之ヲ我國權ノ下ニ

置キ他日有事ノ秋再々仁川ノ失態ヲ
演出セサルノ地步ヲ作り置クハ今日
ノ急務ナリト確信ス
右速ニ決定ヲ請フ

明治三十一年七月

陸軍大臣子爵桂太郎

總理大臣伯爵大隈重信殿

附言馬山浦ヲ開港場ト爲ミタルニ
付ラハ市街ノ配置築港等早晚韓國
ニ於テ着手スルコトナラニ依テ豫
ノ帝國公使又ハ領事ニ訓令セラレ

多數人員上陸ノ爲メニ便宜ノ方法
ニ依リ計畫セシムヘキコトヲ韓國
政府ニ注意セシメ度又鎮海灣ニ於
テモ地所購入ヲ必要トスレ度當分
ノ内地價騰貴ノ恐レ無ルヘキヲ以
テ他日更ニ具申スル所アルヘシ

